

史学委員会・地域研究委員会・哲学委員会・言語・文学委員会合同
アジア研究・対アジア関係分科会
(第25期・第3回)
議事要旨

日時：2022年3月29日(火) 10:00~12:00

場所：オンライン開催 (ZOOM 会議形式)

出席者：川島真、栗田禎子、三重野文晴、下田正弘(書記)、宇山智彦、芳賀満、加藤隆宏、君島和彦、久保亨、黒木英充、國分典子、坂井俊樹、斎藤明、高見澤磨、中村元哉、水羽信男、三ツ井崇、村上衛、桃木至朗、吉澤誠一郎

議題

1. 前回議事要旨の確認
2. 9月18日シンポジウムについて
3. パンデミックと社会に関する連絡会議について
4. 東洋学アジア研究連絡協議会について
5. 提言書等の内容骨子について
6. その他

冒頭、川島真委員長より、定足数に達していることが確認され、分科会の開催が告げられた。

1. 前回議事要旨の確認
前回開催された分科会の議事要旨案を確認し、了承した。
2. 公開シンポジウム「歴史認識と植民地責任」(日本学術会議アジア研究・対アジア関係に関する分科会主催、川島真代表・科研費基盤研究(B)「中国の世界秩序観の歴史的変遷と現在」共催)について、栗田委員より、2021年9月18日にオンラインにて開催され、好評のうちに終了したことが報告された。加えて、成果は紙媒体で『学術の動向』等に公開する旨の提案がなされ、承認された。
3. パンデミックと社会に関する連絡会議について、川島委員長より、本分科会として参加を決定したこと、学術会議執行部で分科会とされることが決定されたこと等、現状の説明がなされた。加えて坂井委員より補足がされた。
4. 東洋学アジア研究連絡協議会について、斎藤委員より、2021年12月18日、本分科会後援のシンポジウム「研究環境の変貌と東洋学・アジア研究」がオンラインにて開催され、盛況裡に終了したことが報告された。川島委員長より、第二回分科会の意見を集約してパネリストとして報告したことが補足された。
5. 提言書等の内容骨子について、久保委員と斎藤委員より、過去の経緯の確認がなされたのち、川島委員長より、今期の提言等の方法と内容について、

幹事会での議論を踏まえ、これまでの議論の整理と論点の提示がなされた。つづいて、委員間で意見が交換され、コロナ禍で変化した研究教育環境の問題点や可能性の分析とそれへの対応、行政・企業・諸団体等への連携領域の拡大、研究教育環境のDX化の必要性等の中長期的課題に加え、現今のウクライナ問題を広くアジア研究の立場から照らし直し、歴史認識や歴史教育を再考すべき直近の課題を視野に入れる必要性が議論された。その結果、これら課題の解決と継承に向けてシンポジウム等を開催し、その成果を文字媒体として記録するとともに、学界、官界、社会へ発信することが承認された。当面、ウクライナ危機をめぐるシンポについては9月頃に開催することとし、準備を進める方針が決定された

6. その他として、芳賀委員より、本分科会に関わりの深い成果として、日本からユネスコ世界記憶遺産登録に、仏教関係の2件の国内推薦が決定し、来年、ユネスコ本部において審議に付されることが報告された。

以上